

## チュートリアル課題 お腹が出てきた

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-09-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東京女子医科大学 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.20780/00032343">https://doi.org/10.20780/00032343</a>

2014年度 Segment. 5

課題 No.6

課題名：お腹が出てきた

課題作成者：産婦人科学

石谷 健



無断で複写・複製・転載すると著作権侵害となることがありますのでご注意ください。

シート1

51歳になった真理子さんは、最近になってスカートをはくと、きつく感じるようになりました。  
「体重は増えてないし、お昼なんかおにぎり2つ食べただけで満腹なのに、どうしたのかしら？」

1年前に会社で受けた健康診断でも異常はありませんでしたが、  
最近、生理の間隔も短くなってきました。

職場の同僚に話すと、「更年期になったらメタボに気をつけなくちゃ」  
と言われて、年のせいで仕方ないかなと思いました。

しかし、なにか腑に落ちないので、真理子さんは近くのクリニックに行って相談してみることにしました。

シート2

クリニックでは、お腹を診察された後に、医師から「お腹に水が貯まっています」と言われました。

真理子さんは突然のことで気が動転しましたが、紹介された大学病院で精密検査を受けることにしました。

大学病院では血液検査を行ない、いくつかの検査を予約してくれました。  
また、真理子さんは指示どおりに、いくつかの科を回って検査も受けました。

シート3

検査の結果について、主治医から真理子さんと娘の正恵さんに診断と今後の治療について説明がありました。夫は単身赴任で立ち会うことができませんでした。

真理子さんは、だいぶ落ち着いてはきたものの多くの不安と心配が脳裏をよぎりました。

「なんでこんな大事な時にお父さんがいないの！正恵はまだ大学生なのに今後治療代が払えるかしら？」

「毎年健診を受けていたのに、こんなことになるなんて！」

「人工肛門になったり抗がん剤を受けることになったりしたら仕事はできないかも．．．」

「子宮も卵巣もなくなったら私、女でなくなるのかしら．．．」

シート4

術後診断は卵巣漿液性腺癌で臨床進行期はIc(a)期でした。  
術後経過は良好で、ほどなくして抗癌剤の治療が始まり退院となりました。

しかし、抗癌剤の副作用で髪の毛が抜け始めたころから真理子さんは、首に汗をかくようになり、カッターになってしかたがありません。  
そのうえ頭痛や肩こり、動悸やめまいなど、身体のあらゆる症状が気になって、せっかく仕事に復帰したのに、忘れっぽくもなり、仕事がおっくうになってきました。

家庭では、お父さんは単身赴任中のうえに息子の浩司だけでなく、大学生の正恵も一人暮らしを始めることになりました。  
子育てが一段落して、ゆとりある生活を楽しみにしていたのに、真理子さんは寂しくなってきた、次第に気が滅入ってきました。

自分からいろいろな科を受診して検査をしたのですが、どこでも「特に大きな異常はありません」と言われました。

シート5

結局、主治医からの今の症状とホルモン補充療法について説明を受けて納得し、貼り薬を処方してもらいました。

真理子さんは、しだいに体調が良くなってきたと同時に、ホルモン剤を続けていて病気の再発や乳癌にならないのか少し気になっています。

抗癌剤治療が終わって半年、治療で抜けていた髪の毛もすっかり元に戻り、仕事に集中できる日々を送っています。

真理子さんは今回の病気をきっかけに病気にならないように動脈硬化や骨粗鬆症に関する本を読み始め、単身赴任から戻ってきたお父さんと一緒に健康づくりに励むようになりました。

最近、浩司は地元で就職が決まり、正恵は真理子さんの通院に今も付き添ってくれています。ようやく、家族皆が健康を実感できるようになり幸せに暮らしています。